



留学経験者インタビュー

中村 香織先生（横浜市立みなと赤十字病院整形外科）

1. 留学先/ 5.給与

ドイツ Heidelberg ハイデルベルク にある ATOS klinick というプライベートクリニックでクリニカルフェローをさせていただきながら Heidelberg 大学より奨学金を頂きました

2. 期間

2016年10月から2019年3月

3. 留学時期

卒後約10年目

4. 留学を目指したきっかけ

海外留学は以前から憧れていましたが、学会等で他大学の留学を経験された先生に会ってお話を伺うことで留学を目指そうと決めました。現在では少しずつ留学生や労働に対する規制が厳しくなっていておりますが、手術の見学だけではなく助手として、非常に数多くの手術に参加できることと同時に研究ができることは魅力的でした。また留学先としてドイツは生活面でも、治安もよく、先進国で生活面での心配がないという点でも良いと考えました。

6. 留守中職場で準備したこと

留守中日本の職場としての籍は置いておりませんでした。

7. 留学先での経験

手術見学（アシスタント）、臨床研究、クリニックでの外来や検査の手伝い

具体的には靭帯、半月板、軟骨に対する膝関節鏡手術、膝変性疾患を中心に、股関節鏡、足部の先天及び変性疾患の手術のアシスタントをしました。

ヨーロッパやドイツ国内の学会、研修会への参加もさせていただきました。

8. 苦労したこと

英語もままならず、ドイツ語も全く理解できなかったのでコミュニケーションには苦労しました。語学力の足りなさを常に痛感しておりました。日本でも同じですが、やはり海外の方が自己主張や意見をしないと受け入れてもらえない、認められないことが多いので語学的な問題に輪をかけて難しかったです。

さらに奨学金制度が変更されたためにビザが更新できていなかったことで手続きに時間を要し、事務的な問題でもトラブルが多くありました。

9. 留学して新たに経験したこと

周辺地域のみならず海外からも多くの患者が集まるため、多くの手術やさまざまな症例をに目にする機会をいただきました。さらに、病院やオペ室のシステムの効率の良さや、医療保険のシステムの違いによる治療の効率の良さ、またドイツでは予防医学も進んでおり、その環境とそこから来る意識の高さも患者さんと接

することで垣間見ることができました。皆プライドを持って働いており、個人の持てる能力を発揮させて、チームワーク良く、楽しく短時間で働く、ドイツらしい働き方は素晴らしいと感じました。

10. 帰国後の職場復帰はスムーズだったか

帰国後の仕事復帰に関しては医局に配慮いただき帰国後からすぐに病院勤務させていただきました。

臨床から離れている期間が長かったので周りにご迷惑かけたことも多いですが周囲に助けていただきました。

11. 留学経験がキャリアに影響を与えたか

経験という意味でのキャリアには非常に大きな影響を与えていると思います。

また人との繋がりが増え、治療の相談等ができる仲間が増えたことも収穫の一つです。

これからまたこの経験を生かして出来ること、やるべきことはまだ残っていると思います。

12. 留学を考えている先生へのメッセージ

今の日本では留学というのはやはり職場や家庭環境、経済的にも様々なハードルがありますが、そこから得られるものは非常に大きいですし、どの時期でもその時々で得られるものが十分あるので、良い時期にしっかり準備して留学するべきではありますが、その他でも自分にはまだ早い、もう遅い、力が足りないかもと躊躇することはないと思います。(躊躇しても、留学しやすい環境になればよいと思います。)

自身も十分な結果を形にできておらず肩身が狭い気持ちもありますが、留学させて頂いた時間は自分の宝と思っています。留学先でも色々な国の色々な立場の先生方が様々な目的で留学されており、形にこだわらず、世界の良いものを吸収していただきたいと思います。今後留学を考えている先生がおりましたら情報共有させて頂きたいです。